

# やさしくわかる臨床疫学・統計解析

科目責任者 小 橋 元（公衆衛生学講座）

## I. 前 文

医学・医療の基礎である「疫学」,「統計」にアレルギーを持つ人は多い。本講義ではできるだけ数式を使わず,「いかにやさしく説明して理解してもらえるか?」にフォーカスした講義を行う。

本講義は, 栃木コンソーシアムはもちろんのこと, 第2週からは学内公開講座を兼ね, すべての方々に役立てる。

## II. 受入可能人数

人数は制限しない

## III. 担当教員

小 橋 元（公衆衛生学講座）  
春 山 康 夫（研究連携・支援センター）  
内 山 浩 志（公衆衛生学講座）  
高 橋 競（公衆衛生学講座）  
阿 部 美 子（公衆衛生学講座）

## IV. 学習内容

座学による講義を原則とする。講義内容は以下の通り。講義の一環として演習問題や小レポートを課すこともある。講義内容は高校で理数系を選択していない人にも理解できるように心掛ける。本講義内容は将来に役立つので興味を持った学生はぜひ積極的に自主学習することを推奨する。

### <講義スケジュール>

第1週 なぜ研究をするのか? 根拠に基づく医療 (EBM) を目指して  
第2週 疫学研究方法の選択  
第3週 バイアス・交絡  
第4週 データの集め方・入力と整理  
第5週 記述統計と推測統計  
第6週 研究計画書の作り方  
第7週 疫学研究と倫理  
第8週 変数の種類と解析法 (1)  
第9週 変数の種類と解析法 (2)  
第10週 変数の種類と解析法 (3)  
第11週 SPSSを用いた解析法  
第12週 疫学研究論文の書き方

## V. 学習の到達目標

予防医学の3段階について例を挙げて説明できる。

病気の危険要因について説明できる。

疫学研究デザインについて説明できる。

生活習慣病の予防について説明できる。

データ解析の基本的な考え方を説明できる。

統計解析の基本的な方法について説明できる。

根拠に基づく医療について説明できる。  
疫学研究の社会実装について説明できる。

VI. 成績評価の方法・基準

講義における演習・レポート課題

VII. 教科書・参考図書・AV資料

参考図書：はじめて学ぶやさしい疫学（南江堂）

VIII. 質問への対応方法

特に設けず，e-mailや電話で予約を取ってから，質問や相談に応じる。

IX. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間 \* ( ) 内はそれに必要な時間の目安

シラバスを確認して，教科書の該当箇所を読んでくること。(20分)

講義内容を振り返り，不明な点などを調べたり，質問して解決すること。(20分)

X. コア・カリキュラム記号，番号

B-1-1), B-1-2), B-1-3), B-1-4)

XI. 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法

適宜，担当教員よりアナウンスする。

Ⅻ. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置く DP    ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	○
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	

六  
学  
年